

# 営農型太陽光発電の導入による 影響の定量的評価

キーワード 生育・収量評価, 経営評価, 景観評価



## ■ 研究概要

2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、太陽光、風力、水力などの再生可能エネルギーの活用が拡大が進められています。特に農山漁村は高いポテンシャルを持つと位置付けられ、農山漁村再生可能エネルギー法が2016年に制定されるなど、その導入が後押しされている。その方法のひとつとして営農型太陽光発電が注目されています。

営農型太陽光発電では、売電による収入などを通じた農業経営の改善が期待されています。その一方で、導入による農作物の収量の減少や作業性の低下といった収益性の課題や導入による農村景観の変化といった地域経済・社会への影響が懸念されます。



写真1 営農型太陽光発電

そのため、当研究室では、営農型太陽光発電の導入による多面的な影響を定量的に評価することを通じて、営農型太陽光発電によるメリットを伸ばし、デメリットを解消・軽減する方策を検討することを目指しています。

## ■ どのような共同研究・連携に結びつけられるか？

- ・農村地域における取り組み・事業の定量的評価
- ・地域状況の分析（アンケート調査、面接調査）

栗原 良樹 准教授 KUWABARA, Yoshiki

専門分野：農村計画学

E-mail : kuwayoshi@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp

